

会員のば

はつかり5号とあずさ2号

函館市医師会
市立函館病院

水関 清

2010年冬から2011年春にかけて、南北で新幹線区間が延伸された。八戸から新青森までの東北新幹線と、博多から新八代までの九州新幹線である。この延伸にあわせて、停車駅を限定し、走行時間の短縮をはかった列車の運行もはじまり、その名称に関心が集まった。東北新幹線では、東京・新青森間の最速達列車の名称として「はやぶさ」が選ばれ、延伸前から走っていた「はやて」とコンビを組むこととなった。東北新幹線での列車愛称の公募で最多得票を得たのは、「はつかり」、以下「はつね」「みちのく」「つがる」「はやて」「みらい」と続き、「はやぶさ」は7位であった。九州新幹線では新大阪・鹿児島中央間の同様な列車は、「みずほ」と名づけられ、もうひとつ採用された「さくら」とのコンビを組むこととなった。競合した名称は、「はやと」「さつま」であった。

対照的であったのは、並行在来線の扱いであった。延伸された東北新幹線に並行するとされた東北線、八戸・青森間は第3セクター鉄道に移管されたが、九州新幹線に並行するとされた鹿児島線、博多・八代間の方には経営主体の変更はなく、JR九州による運行が継続された。

東北新幹線の愛称候補のトップに挙がった「はつかり」は、上野から青森まで、東北新幹線開業前夜の東北線をロングランしていた特急列車である。当時の上野・青森間は最速達列車でも8時間以上を要する長旅であった。「はつかり」号の増発にもなっていて、夜行便と昼行便との効率的運用を目指した車両が考案された。583系寝台特急電車がそれで、昼間は座席特急、夜間はなんと寝台特急電車として、昼夜兼行で走った。この電車は青色に塗られ、昼行の電車が国鉄色の赤に塗られていたのと好対照をなし、東北線を高速で走る姿を遠目で見るだけで、それと判別できたものであった。

「はつかり」号が全盛を迎えていた1975年5月10日、「はつかり5号」という歌が発売された。男性デュオが美しいハーモニーで歌い上げるこの曲を、最

近りバイバルで聞く機会があった。歌詞の詳細を記載することは他紙に譲るが、その要旨は以下のようなものである。

“互いの気持ちに疑心暗鬼になって一時離れていた恋人たち。男性のほうが、旅先の宿から「上りのはつかり5号で上京するから、駅まで迎えに来て欲しい」という手紙を出して列車に乗り、青森から上野を目指す。お相手の女性は、終着駅のひと駅まえから列車に乗りこんできて、男性を探しあてる”、という物語である。

当時の上り・はつかり号は、全車指定席で、グリーン車と食堂車を連結した12両または13両編成の青森発上野行。所要時間は8時間余。福島から上野までの停車駅は固定しておらず、郡山、宇都宮、大宮で分担していた。女性が乗り込んだ「終着駅のひと駅まえ」までの移動には、場合によっては2時間以上の時間が必要だったことになる。また、女性が購入したであろう、はつかり号の指定券も高価であった。当時の指定席特急料金は最低でも700円、大宮・上野間の乗車券が150円、宇都宮・上野間でも570円の時代であった。ちなみに、当時の駅弁は200円ほどで購入でき、大宮駅売りでもっとも値の張る「うなぎめし」でも500円であった。

ともかくも女性は指定券を手し、上り・はつかり5号に乗りこみ、終着駅を目指してひた走る列車の中を、一両ずつ、そして一席ずつ、男性を探して歩いたのだろうか。男性のほうも、駅に女性が現れるかどうかの確信はなく、最低でも6時間近く気をもんでいたであろうから、この女性の粋な計らいには感激したにちがいない。

当時、ラジオからこの曲がよく流れ、その澄んだ歌声は耳に残っていたが、リバイバルで聞いてみると、実は大変なラブソングだったのである。

現在の列車番号名のつけ方は、下りは奇数、上りは偶数に統一されている。この方式が採用されたのは、1978年10月のダイヤ改正時であった。「はつかり5号」が発売されたのは、1975年。余談になるが、「あずさ2号」が発売されたのも、このダイヤ改正の前である1977年3月25日。歌詞から明らかのように、「あずさ2号」は、新宿発の下り列車である。当時は、同じ列車番号をもった、上り・下り両方の列車が運転されていたのである。

一方で、列車が上下1往復のみの運転の場合には、列車番号は付与されない。上り下りとも同じ列車名が、この場合は健在である。往時3往復を数えた「北斗星」は、現在1往復を残すのみであり、上り「北斗星」と、下り「北斗星」とがなかよく運転されている。上りと下りの「北斗星」がすれ違う地点は、かつて「はつかり」号が昼夜を問わず駆けぬけ、このたびの東北新幹線の延伸にもなっていて第3セクター鉄道となった、旧東北線上にある。

人と鹿；お辞儀の交歓

札幌市医師会

門脇 純一

日本人と鹿のふれあいの歴史は、しかと触れずにきた。つい最近、これらのことについて、興味をもち調べてみた。

北海道では野生鹿の激増、それに伴う農作物荒らしが、農家に大打撃を与えていることが喧伝されている。他のひとつは、小さなことではあるが、シグサが可愛くヒトの心をゆさぶる鹿のお辞儀である。これはNHK；TVの動画が初見で、なんとも言えず、今流の表現だと、心が癒された感じ。

前者がネガティブな現象に近いとすると、後者はポジティブになる。

日本には古くから鹿を大切にしている習慣があった。和銅13年、春日大社創造の時に、勧請を受け、鹿島（茨城県）から春日山に入った。その折、神が白鹿に乗っていたという言い伝えがあり、神の使いとして大切に保護されるようになったという。それから藤原貴族たちは、鹿に出会うと輿から降りて鹿にお辞儀をした。

現在の奈良県立都市公園（周辺を含めて世界遺産に登録）の鹿のなかには、お辞儀をしてセンバイを口にするのがある。いつころから、どの辺で、どのくらいの頻度か、公園事務所に尋ねてみたが、不明との返事だった。

こうなると、お辞儀をする対象が、過去と現在で逆転したことになる。世界には逆転劇は少なくないが、経済環境の影響の仕業となれば、心穏やかにならずとなる。

公園の鹿の頭数は2010年7月現在、1,096頭、前年度より44頭増と記されている。死亡原因で多いのは、病死；170頭、交通事故；66頭で、平成22年度の前頭数は294頭だそうである。

われわれの住む北海道の鹿の頭数は、2010年；64万頭、最近2年で2万頭増と想定されている。農業被害は年間50億円にも達するという。したがって鹿の管理に向けての抜本的対策が叫ばれている。

鹿はまた、ライム病というマダニによる人畜共通感染症のあることも知られている。

対策として捕獲、食肉利用などがあげられていながら、ハンター不足、射殺などは国内外の批判も問題を抱えている。

米国、カリフォルニア大学の研究室では卵膜ワクチンを使用することで、野生鹿の避妊に成功の報告（Kirkpatrick J.F et al. Reprod Fertil Dev, 1997）もある。研究員にMurataという日本人名もあげられている。

この方法は人畜に優しいポジティブな発想として、将来に期待したい。

『歴史能力検定』をご存知ですか？

遠軽医師会

JA北海道厚生連遠軽厚生病院

木島 基

最近は各種検定がブームで、漢字能力検定や英語能力検定については受験者も多く、皆様もご存知のことと思います。歴史能力検定（歴検）はそのようなメジャー検定に比べると、ややマイナーではありますが、小中学生から高齢の方まで、年間約3万人が受験しています。試験は7月・12月の年2回で、日本史・世界史に分かれており、両方の受験も可能です（1級は12月のみです）。レベルについても、入門レベルの5級から、専門家に匹敵する知識が要求される1級まで、幅広く用意されています。また、1級に3回合格すると『修士』、5回合格で『博士』、10回合格で『大博士』の称号が与えられます（早稲田大学で表彰されます）。

ここで、世界史1級の過去問を2問紹介させていただきます。文章は多少変更しておりますが、容易に解答できるようであれば、1級合格も十分可能と思います（合格ラインは6割が目安です）。

【Q1】ストラヴィンスキー作曲のバレエ音楽で、1913年にパリで初演され、ロシアの原始宗教を題材にしたといわれている作品は？

【A1】春の祭典

【Q2】ヨーロッパにおいて初めて陶磁器の生産に成功したドイツの都市は？

【A2】マイセン

手前味噌ではありますが、私は2006年から世界史1級を受験し、昨年まで5年連続で合格したため、日本で3人目の『世界史博士』になることができました。また、2009年からは日本史1級も受験しており、昨年まで2回合格しております。1級合格に向けた勉強としては、教科書・参考書・問題集のほか、図書館に通って新書を読んでいます。また、政治・経済のみならず、例題のように絵画・音楽・建築・焼物といった文化史からも出題されるので、専門書や雑誌などから知識を得るようにしています。

以上、歴史能力検定について紹介してみました。興味湧いた方はいらっしゃいましたでしょうか？試験に興味のある方は、歴史能力検定のサイトをぜひご覧ください（<http://www.rekiken.gr.jp/>）。

函館の啄木

函館市医師会
仲屋内科胃腸科医院

仲屋 裕樹

石川啄木（1886～1912年）の命日である4月15日には、毎年函館で追悼会が開かれる。今年は百回忌にあたり、50人余りの啄木関係者が東海山地蔵堂で法要に参列し、26歳の若さでこの世を去った天才歌人をしのんだ。

啄木が来函したのは明治40年5月5日で、函館大火のあと9月13日に札幌に向かったから、函館滞在はわずかに132日間である。その後札幌に14日、小樽に140日、釧路に76日と道内を放浪する。そして再び函館に姿を現したのは明治41年4月7日であり、その月の24日上京した。

この5ヵ月に満たない函館の生活で、啄木はその才能を多くの人に愛され、7月7日には妻の節子と娘の京子を函館に迎えて一家の暮らしをして、幸せな一時期であった。啄木は上京後も函館を懐かしみ、歌集「一握の砂」には函館を詠んだ歌がいくつもある。

現在函館の立待岬に建つ啄木一族の墓の表面には、啄木のノートの自筆を拡大した「**東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる**」の歌が刻まれており、裏面には「おれは死ぬ時は函館へ行って死ぬ」という宮崎郁雨にあてた明治45年12月21日の書簡の一節が刻まれている。

明治40年7月7日、啄木は函館に妻子を迎えて、青柳町に新居を構えた。夜具や家財などは友人たちが持ち寄って貸してくれた。その翌日、啄木は宮崎郁雨に「○少し当分御貸しくだされ度奉懇願候」とはがきを出した。これが啄木から郁雨に対する最初の無心状であり、その後啄木が病死するまで無心が続くこととなる。

この年の6月11日から啄木は弥生尋常小学校の代用教員になったが、このとき同僚となった橘千恵子に一方的な思慕を抱き、後日22首の美しい恋歌を作っている。ところが単身で赴いた釧路では啄木の生活は荒れ、芸者小奴や本行寺の娘小菅まさえや看護婦梅川操たちとの恋愛遊戯があった。

今年の春上演された三谷幸喜の演劇の題名は「ろくでなし啄木」である。お金にルーズで女にだらしない啄木が強調されている。私の父は「啄木は性格異常者であるが、作品がよければそれで良いのだ」という。啄木の歌は誰にでも分かる歌であり、日本人の生活感情を最もふさわしい表現で歌っているのである。

啄木の父石川一禎は岩手県浪速村の宝徳寺住職だ

ったが、宗費急納が原因で明治37年12月住職を罷免された。明治38年5月、啄木は処女詩集「あこがれ」を出版し、この月、堀合節子と結婚したが、一家扶養の責任が啄木にかかってきた。明治39年4月、啄木は浪速尋常小学校に代用教員として採用された。父の宝徳寺住職再任のため親子で努力するが、檀家間の対立紛争が起こり父の宝徳寺復帰は失敗する。啄木自身は校長排斥のストライキを指示して、代用教員を明治40年4月罷免された。

啄木は函館の松岡露堂に移住の件を依頼した。露堂は函館の文芸雑誌「紅苜蓿」の同人の一人で、啄木と同じころから与謝野寛の門に入り「明星」に歌を出しており、それが縁で啄木と文通していた。

苜蓿社が結成されたのは明治39年の暮れであり、明治40年1月から「紅苜蓿」を発行し、啄木からも原稿をもらって毎号を飾っていた。しかし編集に専念する者がいづ困っていたところに、啄木から函館に行って仲間に加わりたいが行ってもいいかと言ってきたのである。啄木に深い事情があるのを知らない苜蓿社の連中は、詩集「あこがれ」を刊行して青年詩人としてすでに文名高い啄木を喜んで受け入れたのである。

明治40年5月5日、来函した啄木は松岡露堂、岩崎白鯨、宮崎郁雨、吉村白村らに迎えられた。露堂は青柳町に住んで、そこに苜蓿社の看板をかけていた。その夜からこの露堂の部屋に啄木は寄食することになった。そして毎日のように同人たちが集まるとは、文学を談じたのである。函館公園に建てられた啄木の歌碑には、「**函館の青柳町こそかなしけれ 友の恋歌 矢ぐるまの花**」と彫られている。

阿部たつお氏は啄木の生涯に対して、函館が与えた影響を考察して3点をあげている。

第一は、啄木が函館で初めて新聞記者の仕事に就いたことである。その後札幌、小樽、釧路、そして東京の朝日新聞と、啄木の仕事は新聞関係に終始した。

第二は、啄木が函館に来てから再び短歌を作り始めたことである。啄木は17歳ごろから「明星」に短歌を送っていたが、あまり高く評価されなかった。そのうち20歳のとき処女詩集「あこがれ」を出して青年詩人の盛名を得た。函館で苜蓿社の連中とたびたび歌会をやっているうちに、再び作歌意欲がわいてきたらしい。今日愛唱されている啄木の歌の多くは、上京してから作られたものである。

そして第三は、啄木が函館で多くの盟友を得たことである。その中でも宮崎郁雨にめぐり会ったことは特記される。啄木が函館に節子夫人を迎えて青柳町に一家を構えた日に、郁雨に借金を申し込んだのを最初にして、郁雨は啄木からの返される当てのない借金の申し込みを断ったことがないばかりでなく、事情を察して自発的に送金したこともたびたびであった。

啄木の不朽の業績は、主として明治41年4月に上京して45年4月に亡くなるまでの間に作られた。もし郁雨の後援がなく東京に出ることができなかったら、啄木の業績を今日見ることはできなかったかもしれない。

函館の大森浜には啄木小公園があって、函館山を背にして啄木座像がある。座像の台座には「潮かをる北の浜辺の 砂山のかの浜薔薇よ 今年も咲けるや 啄木」と浮き彫りされている。

啄木の像にだれかが夏帽子 悠声

この俳句は私の父の句で、悠声は父の俳号である。この句を見ると父も啄木が嫌いではないらしい。

参考文献

- 1) 啄木と函館、阿部たつお著、桜井健治編、幻洋社、1988
- 2) 啄木讃歌 明治の天才の軌跡、岩城之徳、桜楓社、1989
- 3) 啄木浪漫 節子との半生、塩浦彰、洋々社、1993

40年ぶりの発表会

胆振西部医師会
守谷内科医院

坂本 伸雄

北海道医師会の皆様こんにちは、このたび旭川市医師会より胆振西部医師会に異動いたしました坂本と申します。昭和51年札幌医大卒業ですが、卒後旭川医大耳鼻咽喉科に入局し、釧路労災、旭川厚生などに勤務の後、旭川市内で開業していました。諸事情あり、伊達市内の守谷内科医院に、耳鼻科を増設する形で勤務することとなりました。

さて、私は学生時代にクラシックギターを趣味として、当時札幌医大に創設された室内楽団に入り活動していました。今では考えられないのですが、当時はクラシックギターブームがあり、かなりの人間が習っていたものです（ナルシソ・イエペスが映画の中で弾いた「禁じられた遊び」を皆が弾きたがったものです。経験された方もいると思いますが、この曲、様になる演奏はかなり難しく、途中で挫折することが多いのです）。当時、室内合奏団ではヴィバルディのギター協奏曲を演奏させていただきましたが、今考えると、よくやれたものだと思います。若さゆえでしょうか、今はとてもそんな度胸と体力はありません。

卒業してからは研修等忙しく、ギターを弾いている時間がないのも当然なのですが、もう一つやめてしまった理由があります。それは爪の問題なのです。クラシックギターは原則として自分の爪をのばして演奏します。爪を切ったの演奏（指頭奏法とい

います）も可能なのですが、長年の訓練を必要とします。外科医として爪が長いのはやはり手術がやりにくいですし、のばしてみるとわかるのですが、日常生活でもかなり不便です。とそんな訳でたまーにいたずらするくらいで、ほとんどギターをさわらなくなり、余暇は運動にいそしんでおりました（野球・硬式テニス・アイスホッケーなど）。

開業して15年ほど経ったある日、突然気がつきました。今はほとんど手術はしない、ということは、爪をのばしても支障はないのでは？しばらく考え、ギターを引っ張り出し、電話帳でギター教室の案内を探し、また習うことにしました。当時は旭川でしたが、その教室はあまり生徒さんが多くなく、発表会という形はとっておらず、仲間内の演奏会といったものでした。

伊達に移住してからどうしようか考えていましたが、千歳の教室にお世話になり、月に一度レッスンに通っています。まだ若い教室ですが、今年で3回目の発表会が7月10日に開催されました。会場は千歳市内の中心部にある教会で、よく響く、雰囲気のある建物です。まともな発表会は学生時代以来、ソロで人前で演奏するというのはなんと緊張するもので、本番前から何となく落ち着きません。練習のときはなんともないのですが、手が何となくしっとりとしてきます。見てわからないくらいですが、汗をかいています。よく言われることですが、素人は練習の6割できれば上々だそうです。出番まで後3人…2人…1人…。さあ、できは？そんなことここでは言えません。

日本語の多様性 ：日本人の寛容性と曖昧さ

札幌市医師会
札幌北クリニック

大平 整爾

文字を持たなかった日本人は中国の漢字から音や意味を拝借して、自分の言葉を記録することを始めた。漢字からカタカナとひらがなを生み出して、文字表記に幅を持たせる天才を示しました。26文字のアルファベットからあらゆる言葉をひねり出す欧米語にも驚嘆するが、さまざまな形の多数の漢字を考案した中国人の知恵に驚き入る。日本同様に漢字を借用してきた朝鮮半島は15世紀半ば以降ハングル文字を生みだし、当初は女性や子供が主体に用いてきた。今では漢字はほぼ駆逐され、ハングル文字（10の母音字と14の子音字）を組み合わせて音節文字として表記されることがご承知のように主体となっている。

漢字という文字がどれほどの数存在するのか、20

万とする説もあるらしい。同意異体字を除外し、実際に違った意味を持つ漢字はおよそ15,000字だという。それにしてもアルファベットやハングルとは大違いだ。ルビ(振り仮名)という手法も日本語に特有であり、音読しがたい言葉の読み方を教えてくれる。

例えば、「饗饌たる」を読める人は私を含めて多くはあるまいが、これを「饗饌たる」とするわけである。明治39(1906)年に出た夏目漱石の「坊ちゃん」は初めから終わりまで多くの漢字にルビが付されていて、「肋骨」などおもしろいものも散見される。さて、「羸瘦」は医書でもいつの間にか「やせ」になって、当初ほっとしながら違和感があったが、今ではごく普通のことになってしまった。ルビの面白さは「百日紅」「春告魚」「五月雨」などの当て字や「大親分」のように和洋折衷型もあって、興味深い。

文明開化以来、外国語がどっとわが国へ入ってきたが、西周のような和洋漢語に強かった明治時代の先人はscienceを科学、reasonを理性、philosophyを哲学と漢字化した。最近では外国語を日本語に翻訳せず、「カタカナ表記」で済ませる傾向が強い。インフォームド・コンセント、アカウントビリティ(accountability)、コミュニケーション、ビジネスマナー、カンファランスなどなど、枚挙にいとまがない。

漢字しか持ち合わせのない中国ではどうするのだろうか。コンピューターのmouseを日本人はマウスとしているが、中国では電鼠というらしい。やはり「鼠」という文字を当ててはいる。Television(TV)を私共はテレビというが、かの国の人には電視というそう。いろいろな漢字を当てられるであろうから、一つの外国語に当てる漢字が定まるまでに少し時間が掛かるのではあるまいかと、他事ながら懸念するのである。

さて、政府の公文書がカタカナ交じりはまだよい方で、カタカナづくめということもあって識者を嘆かせてしまう。同意語があれば、できるだけ自分の国の言葉で用を足したいと思うのである。

日本語に外国語やアルファベット混じりの妙な言葉にも、最近をよく出くわす。「秋の収穫フェスタ in 北海道」の類である。フェスタは確かイタリア語ではなかったか。近ごろ、世間を騒がす「モニターペアレント・モニターペイシエント」などは、どうやら和製英語らしい。「アフターサービス」も正しくはcustomer serviceだという。「ランニングホームラン」は和製英語と知って驚く。正式に言うinside-the-park homerun(球場内ホームラン)よりは、打球が転々として転がる間にホームインするさまをランニングホームランが表しているように思える。そうだとすると怪しげな外国語が飛び交う昨今の世情の故か、人種・民族・文化・言語はほぼ等しく結ばれたものであったが、それらの結びつきはやや緩んで

きた感じがする。

エミール・シオラン(1911-1995)という思想家は、「私達はある国に住むのではない。ある国語に住むのだ。祖国とは国語だ。それ以外の何ものでもない」と力説した。同じように、「祖国とは、国語である、一に国語、二に国語、三四がなく、五に算数」と唱えるのは、数学者・作家の藤原正彦氏である。私も思考の基礎は言語、すなわち国語であろうと考えているから賛同するが、五番目に算数が出てくるのは鼻唄目であるのか否かを実のところ知りたい。

おおかたの人はいくつかの外国語を操ったとしても、国語(母国語)ほどにはうまくはいくまい。何かを考えると、私共は意識していないが言葉を基盤にしている。だから豊かな思考は、豊かな語彙に依存するところが多かろうと愚考するのである。豊かな語彙は、豊富な読書や知的な会話から得られるものだと感じている。英文学者の外山滋比古氏は「心を育てるのは言葉や知識よりも家風・校風・社風といった目に見えない影響力だ」と説いていてもっともだと感じるが、それらもたどっていけば、やはり広義の言葉につながるのではあるまいか。

2010年10月24日の読書新聞は日本人の読書調査の結果を掲載したが、「1カ月本を読まず、52%」をタイトルに掲げた(全国読書調査、2010年9月25日~26日、250地点。有権者3,000人を抽出し、1,815人(61%)から回答)。その理由は1)時間がない、2)読みたい本がない、3)本以外で知識が得られる(テレビ、ネット、新聞など)だったという。読書離れが歴然としたアンケート結果である。

藤原氏が怒るわけである。だから、このエッセイストは「日本人の矜持」という本の帯に、激しく「読書せぬ者は人にあらず、ケダモノなり」と書くことになる。売らんかなを意図する本の帯であろうが、読書はテレビを見るのとは違って灰色の脳髄を多少とも使う行為だと信じているので、一定の読書量を確保したいと思うが、知識の取得方法は今後大きく変わっていくことであろう。

さて、漢語の表記は、明解さや簡明さに優れ秀でている。「着々寸進、洋々万里」や「着眼大局、着手小局」などは、思いがくどくどせずに数少ない漢字にこめられている趣である。日本語の多様性は否定しないし、日本語に面白さを付加してくれている。これはよく言えば日本人の寛容性から生み出されているが、曖昧さや優柔不断のせいかもしれない。やはり、日本語には、凜然とした作法にかなった用法がなければなるまい。



女性のQuality of Lifeの 向上を願って

札幌市医師会
エナレディースクリニック
エナ大通クリニック

木村 美帆

2008年よりエナレディースクリニックおよび分院のエナ大通クリニックに勤務し、女性医療に従事しています。産婦人科の一般医療に加え、予防医療・低用量ピル(以後OC)・禁煙外来など(産科部門では胎児心臓スクリーニングも)、スタッフ一丸となって取り組んでいます。

近年、避妊に対し、正しい知識がなく無防備であり、月経や身体のこと・病気についてあまり知らない・興味を持たない方が多数であると感じます。これらが本邦における検診率の低さなどに表れているのではないのでしょうか。しかし女性の身体は、生命を育むことが可能な唯一の機能を持つので、もっと自分の身体を大切にしたいと思えます。

性教育等にて避妊や病気など、ある程度の教育を受けたとしても、それを意識し実行するかどうかで、話は変わります。性交渉自体がコミュニケーションの一つとして選択されるなら、HPVの感染/将来の子宮頸がんのリスク・クラミジアなど性病の感染・妊娠のリスク等があることをしっかり自覚する必要がありますし、性病予防=コンドーム・避妊=OCといった正しい知識を持ち、対応すべきでしょう。

OCは安全性が高く、将来の妊娠に影響せずに内膜炎・月経過多・月経困難症や生理不順などの症状の改善が期待でき、周期調節のほかに卵巣がん・子宮体がんのリスク低下、ニキビ・肌荒れの改善、更年期予防など、さまざまな疾患に対し、非常に効果的でメリットも多く有用です。昨今は晩婚化の影響もあり、妊娠希望の頃には内膜炎などで、妊娠に不利になるケースも多いため、ぜひ早い時期から健診を受け、OC等を有効に活用して欲しいと思えます。また、新しい緊急避妊薬「ノルレボ」が、先日発売されました。以前までのヤッペ法よりも副作用が少なく、1回内服で効果があります。緊急時には、このような投薬も必要ですし、OCと合わせて広く周知されるよう願います。

OCなどホルモン剤と名が付くものは、一般に印象が悪くありません。そのために当院では、OC処方時にコメディカルによる十分な説明時間を設け、理解を深めてもらいます。また一般の方にも知識を広めたいと考え、スタッフによるブログも開設しています(<http://ameblo.jp/enaoc>)。

いまだに、婦人科は受診し難いと患者さんから言われることが多々ありますが、これからも気軽に受

診しやすい雰囲気作りを大切に、最善策を患者さんと一緒に考え、女性のQOLの向上や個々のライフプランに合ったサポートをしていきたいと考えています。

マラソン大会&ジンギスカン

札幌市医師会
新琴似内科クリニック

佐藤総太郎

医者になってから、研修医の忙しい時期に、仕事以外は趣味も何もなくなってしまっていた私ですが、5年前に父の無床診療所を継承してからは、夕方など時間をとれるようになりました。メタボリックシンドロームも進行してきていたこともあり、少し運動するようになりました。

そのなかのひとつにジョギングがあります。かなりサボリ気味で、不定期にジョギングをしているような状態ですが、私の地域の近くには熱心なランナー先生達がいらっしゃり、何とか刺激をうけながら続けています。

先日、6月26日には、真駒内公園で「第1回日刊札幌駅伝」というマラソン大会がありました。4人チームで20km(ひとり5km)走る駅伝です。新琴似近辺の医者チームで参加してきました。その名も「チーム ジンギスカン」。第1走が私で、2走が阿部内科医院の阿部環先生、3走が飛騨内科クリニックの飛騨昌彦先生、アンカーが新琴似皮膚科スキンケアクリニックの細川一義先生、というチームでした。今年が第1回の駅伝大会で、それに出場する人たちは、気合の入っている人が多く、皆速かったです。タイム、順位はさておき(笑)、私の遅れを皆が取り返してくれ、感激しました。私にとっての5kmは長く、精神力との戦いですが、だいたい負けてます。

最後には、一緒に参加した製薬会社さんたちのチームと、ジンギスカンをしました。さすがに、アンカーの人は走ってすぐなので気持ち悪そうでしたが、細川先生はもりもり食べてました。すごいです。

運動した後のビールとジンギスカンは格別のおいしさで、来年も参加したいです。



医療よ医師よ 「生命科学振興と医哲学」

札幌市医師会

社団法人 生命科学振興会

佐々木迪郎

はじめに

1973年に総理府直轄で創設され、現在は文部科学省管轄の公益増進社団法人である、生命科学振興会の存在はあまり知られていない。

当社団の誕生は1960年代に分子生物学分野の研究が、世界的に遺伝子解明と操作を現実化し、医学では人工受精児の誕生が実体化し、心臓移植の歴史が1967年に開かれて生命の尊厳性や人間の倫理観が問題視され、特に日本の心臓移植は刑法に問われ、1970年に不起訴処分になったが、騒然さは今も消えていない。そんな中で湯川秀樹や松岡英宗、武見太郎らによる発足であったから、時の生命観をただそうとした気概の表れでもあったに違いない。

よって当然のごとく日本医師会会長は今も理事であり、北海道では吉田北海道医師会長と樋口札幌市医師会長の時代から30年来の法人会員で、現在の札幌市医師会長は10年来の特別会員である。

社団の理念

その気概は創設の基本理念に示され、「社団法人生命科学振興会は次に掲げる理念にも基づいてその活動を推進する」と前置きし、

1. 生命の尊厳のために

人権、民族、国家、社会、あるいはまた思想、信条の別なく、それらを超えてすべての人間生命は平等であり、尊厳である。人間の連帯と平和も、さらにまた人類の繁栄も福祉も、すべての基盤はここに存する。

1. 人間と社会と自然の調和のために

人類生誕の源泉はこの宇宙にある。生きとし生けるものの連帯性に心をおいて、この大自然との調和の中においてこそ真の人類の繁栄と福祉とを創造していかなければならない。人間社会の将来のために、かけがえのないこの美しい地球と世界のために、真の人間の生き方を求め、世界観を拓いていこう。

1. 人間を育む科学の創造のために

新しい時代の人間観の創造は、科学、哲学、宗教、芸術など、あらゆる自然・社会・人文諸科学の所産と人類文化の歴史を貫いてこそ、初めて実を結び、究められるものであろう。心豊かな人間の世紀を築き上げるために、新しい文化の創造のために、そしてさらに人類普遍の新しい人間学の創造のために、英知を集めて歩みだそう。と結んでいる。

創設者

上記のごとく、当初から生命現象の形而上（精神

面）・形而下（物質面）を合わせた振興であったが、それは創設者たちの気質にもよるところであった。いまも社団の宝物である揮毫を残した湯川秀樹はノーベル賞物理学者であって老荘の思想に長け、アインシュタインらと世界平和連邦をつくった。松岡英宗はフナイ薬品工業KKの後継者と目され、阪大医学部出身でアメリカで東洋哲学の学位を得て帰り天台宗の沙門に得度した。武見太郎は世界医師会長を務めローマ法王庁に「地球の生命生存の理法」なる永久文庫をもち仏道に通じ、ノーベル平和賞の佐藤栄作は、とくに公害問題と地球の危機に心を痛め世界に先駆けて環境庁を設立し、自然との共生を説いたとされるなど、いずれもが、昨今の世界にも類を見ない文武両道の人達なのであった。

ケネディの生命倫理研究所

ちなみに同時期に、ジョージタウン大学に設立したケネディ生命倫理研究所では、いまも生命自然科学論とははっきり隔線を引いた分野を歩いていて、生命物理学者（ライフサイエンティスト）とは歩みを寄る気配はない。もともとアメリカには民族伝承文化としての宗教や哲学はなく、ヨーロッパ文化継承の域にあるだろう。なればこそ、米国社会は、現実優先主義に偏り、法律論が得意で、ディベートとリベンジが流行り、継承哲学の倫理は継承宗教の掟に拘束され、逆に言えば米国で確固たる固有の倫理を主張するのは難しい。

西洋の哲学と日本の誤解

先日の理事会の合間に竹村牧男先生（東洋大学学長）に日本の哲学は育たなかった？と聞くと西田哲学があったとお答えになった。しかしそれで終わってその後はない？と問うと、そう、とうなずかれた。

そこで気付いたのは、日本の哲学不毛の始まりが、明治の開国時に「西洋の哲学」の受け取り方に厳しさがあったことである。

まず、西洋の（哲学）を形而上学と名付けたのは、明治の哲学者・井上哲次郎（1855～1944）で、元は中国古典の易経の「形而上者謂之道、形而下者謂之器」によったとされ、ならば老荘の「道」と論語に「君子は器にあらず」とある「器」が対になった学問で、井上は在来の仏教と渡来のそれを結合させた独自の哲学を志したとされている。

しかし、それに先駆けギリシャ語のフィロソフィーから「哲学」という語を生んだ西周（1829～1897）は、西洋哲学を元に広範な知学大系を展開したせいもあって「哲学」という語が一般的になったと思われる。だが、渡来した哲学は、古代には間違いなく包含していた自然科学がすでに独立し、さらに宗教もが分離し去った残物であることを明確にしそびれた欠点があった。

いまでもよく見れば、西周の（西洋哲学）と井上哲次郎が形而上と称した（日本の哲学）が、この違いを明確にしないまま思想界が混乱しており、そ

れが難点なのである。

さらに、先回の敗戦は哲学が民族固有であることを健忘させ、万事が西洋流をうのみにしたが、米国からのそれはほとんどが自然科学のみで、知性学の波及はなかった。先述のごとく米国人の哲学は宗教とともに西洋の受け売りで、日本人はその一神教の発想にもなじまず、飢えを恐れて目先の物欲に染まり、精神が科学に敗れたと誤解した科学万能が拍車になって、この認識のなさでやってきたことが、いま思想学がない因と思われる。

初代理事長の危惧

当生命科学振興会は西洋と異なる生命観の思想で創設した社団であった。

だが、一度だけ松岡英宗先生が、生命物理学が目立ち始めたころに、生命科学という社団の名称に誤解を受けることがあると嘆かれたのを聞いた記憶がある。

今回の社団見直しを機に、機関紙「ライフサイエンス」の1巻1号を読んだが、冒頭に茅誠司（東大総長）の、生命科学の振興には科学技術の振興が大切であるが精神文化の方により大きい意義がある、という論説がある。

にもよらず、行政の受け皿は、同誌に「ライフサイエンス研究推進体制」と題する科学技術庁計画局長の記事があり、当面の研究課題として①老化制御②人工酵素③思考過程とその情報処理④人工臓器等医用生体工学⑤生態系活性物質があげられていて、所轄が科学技術庁ということと、直後に科学技術会議の中にライフサイエンス懇談会が設置されたのと相まって、精神文化の分野は研究対象から外され、忘れ続けてきたことにつながるとわれ、松岡先生の嘆きに解をえた思いがしたのである。その体制は、最近も変わらない。

哲学の未来への提言:哲学(フィロソフィー)と自然科学と習慣の関係

そもそもギリシャ文明に源をもつ西洋哲学は、モラルとエチクスを追及するといひ、その語源は共にカスタム(習慣)であるという。習慣とすれば、いかなる民族にもある伝承文化=不文律で、それを集団の規範とする努力が道徳や倫理を生むと納得する。それがいまの日本では消えている。一例として、高校の倫理学の教科書には、日本の倫理の記載がほとんどなく、大学で「日本の哲学」を修めるところもない、最新の日本の哲学思想事典にも〔哲学〕の項は西洋とインドにしかない。

地上の民族の習慣は、すべて形而学的には無分別である。それを西欧の近代化は何かと分別し、その古いころに「擬人化を否定して」自然科学を生み、故に自然科学は精神文化、すなわち心を手放した。また擬人化の極限に絶対神を分立し、人の生命観を神に渡したのではないか。その人間不在の二つが、今世界を圧倒している。が、東洋では、現代もなお

峻別は苦手で、インド哲学や朱熹学のごとく哲学も宗教も科学もの三位合体であり、やむなくわれわれは自然科学をドルの経済を中に哲学と宗教につなぎ、そのドルで頬を叩かれるごとき自然科学の圧底はそれを呑めば呑むほど心は途方に連れていくのである。

しかし、21世紀の昨今、分別に熱中してきた欧米の諸般が行き詰まりはじめ、例えばチンパンジーと人の遺伝子が数パーセントの差で両者の差を説くめどは立たないなど、生命科学を極める努力も人類に手放しの幸福をもたらす可能性は難しく、分別志向の申し子で、真理を証する物差しのはずの自然科学が迷路に落ち、このままでは地球の生命体が荒廃し人類が裁かれると危惧されている。

分けるから相対立し、付け狙うのが常になる。いまこの発想は無勢であるが、人類の理想とするのは、その逆ではないか。われわれには「歯には歯を、目には目を」のお互い様ではなく、「相見互い」「先ず隗より始めよ」などの「和」があるのを思い西欧の分別癖と折衷すべきで、それは日本においてふさわしいと思われる。

おしまいに

当生命科学振興会は世界にも類のない先賢が、生命現象を形而上下を含めて希求する集団として創設した。が、この理念は近代国家の多くに軽視されている。しかし、いま地球上に拡大している民族間の凶暴な放埒も、多くが西洋の分別志向が生んだ自然科学と功利主義の固着によると考えるとき、それをなだめるのは東洋の、共感をもった形而学の通底であると明識をもって世界にむけて説くべきと思うがどうであろうか。

それは当社団の理念にもある、全生命の尊厳、全環境の調和、自然科学の限定であろう。そしてそのための課題は哲学や宗教を究めた自然科学者の集団の構成であり、自然科学と精神文化を揃えて病者と毎日ある医療人こそがその最先端にあると考える。全国の医師諸氏に、この事情をご賢察いただき、国の助成や人事関与もなく、志を共にする会員の会費で成り立ち、市場原理主義への関与や時勢に便乗しない会ではあるが、形而上下を合わせた生命倫理の支柱をたて、ひたすら公益性を掲げる理念を、励まし共に育てて下さる会員に加わり、ご支援をいただきたい思いを込めてお伝えする次第である。

